



新年のご挨拶



常陸大宮市長
三次 真一郎

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことに心からお慶び申し上げます。本市は、今年10月に市制施行15周年を迎えます。また、本県では昭和49年以来45年ぶりとなります「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されます。本市では、なぎなた競技が9月29日から10月1日までの3日間、西部総合公園体育館を会場に実施されます。開催まで10か月足らずとなりましたが、万全の準備と心からのおもてなしをもって、素晴らしい大会としたいと考えます。市民の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、自然災害級と言われたほどの猛暑や6月の大阪府北部地震、7月の西日本を中心とした豪雨災害、9月の北海道胆振東部地震など、大きな自然災害が発生し多くの方が被災され、あらためて安全・安心な市民生活が送れることの大切さを痛感した年でありました。

本市では、いち早く市内小中学校全普通教室への空調設備設置を決断し、設置に向けた作業を着実に進めているところです。今年からは、新学校給食センターの建設事業を進めるなど、次の時代を担う子供たちのため、更なる教育環境の充実と安全を図るとともに、子育て支援につきましても、昨年10月に設置した「子育て世代包括支援センター」を中心に、安心して妊娠・出産・子育てのできる環境整備を引き続き進めてまいります。このほかにも、誰もが安心して豊かに暮らせる地域社会を築いていくため、防災・減災対策の充実強化をはじめ、安全安心な地域医療体制の確立、地域住民の日常生活に不可欠な生活交通を安定的に維持するための地域公共交通体系の確立、老朽化した道路・橋梁・上下水道などインフラ資産の計画的で効率的な維持保全・更新などを着実に進めていかなければなりません。急速に進む人口減少と少子高齢化に適切に対応し、地域の活力を維持・発展させながら、市総合計画を基本に20年後、30年後を見据えたまちづくりを市民の皆様とともに着実に進めてまいります。

結びに、平成から新しい元号に変わる今年、市民の皆様方のお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸、そして実り多き輝かしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



常陸大宮市議会議員
淀川 茂樹

明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、平成31年の新春を健やかに迎えのことに、お慶び申し上げます。昨年8月に議長に就任し、早くも4か月が過ぎました。常に時代に対応した地方分権を先導する議会を目指して、一層の議会改革に取り組むとともに、より開かれ、信頼される議会を構築してまいりたいと、あらためて決意しております。

昨年一年を振り返りますと、羽生結弦選手の2大会連覇で話題となりました平昌オリンピックでの日本選手団の活躍や、本庶佑医学博士のノーベル医学生理学賞の受賞などがありました反面、西日本が記録的な豪雨に襲われた平成30年7月豪雨や数々の台風の襲来、また、大阪や北海道での地震など、多くの自然災害が発生した年でもあり、改めて災害への備えの大切さを実感した年でありました。

さて、本市では、今年が市制施行15周年の節目の年であり、第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体開催の年でもあることから、市民とともに祝い、一体となって取り組むことで、更なる一体感が生まれることを願っております。行政に目を向ければ、地方分権の進展により、市が果たす役割は一層重要になっております。常陸大宮市においては、人口減少・少子高齢化への対応、地域公共交通網の整備、産業の振興、中山間地域や中心市街地の活性化などの課題が山積しております。

このような課題を抱える中、議会が果たすべき役割及び責務の重要性が、益々増大しておりますことから、特に、人口減少や少子高齢化への対応を喫緊の課題ととらえ、昨年12月の定例会におきまして、対策に向けた特別委員会を設置したところであります。市民の代表である市議会といたしましては、執行機関と連携を図り、互いに切磋琢磨しながら、二元代表制の一翼を担うべく一丸となり、市政発展のため、そして、市民の皆様が、住んでよかったと思えるまちづくりの実現に向けて、鋭意努力してまいりたいと考えております。

結びに、本年が皆様にとりまして、実りある飛躍の年となりますよう、心からご祈念いたしますとともに、今後も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年の挨拶といたします。